

洪水

気象情報をよく聞き、
早めの避難を！

河川災害の主な前兆現象

- 堤防の川側が崩れはじめた
- 堤防の土が削り取られたり、護岸が崩れはじめた
- 堤防の側面から水が漏れ出した
- 増水が早く、水が堤防を越えそう
- 堤防にひび割れが生じた
- 堤防近くの地盤から水が噴き出ている

洪水はん濫が発生するしくみ

河川の水によるはん濫 (外水はん濫)

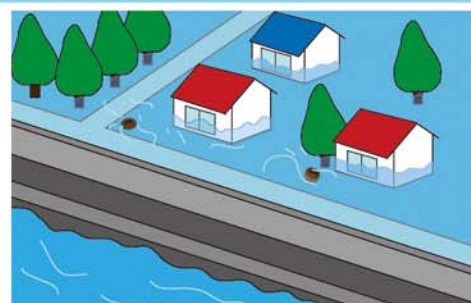


増水した河川の水が堤防の高さを越えて街中であふれ出します。



堤防に水が過度に浸み込んだり、堤防が河川の流れにより侵食(けずられる)されて堤防が決壊し水があふれ出します。

河川に排水できない水によるはん濫 (内水はん濫)



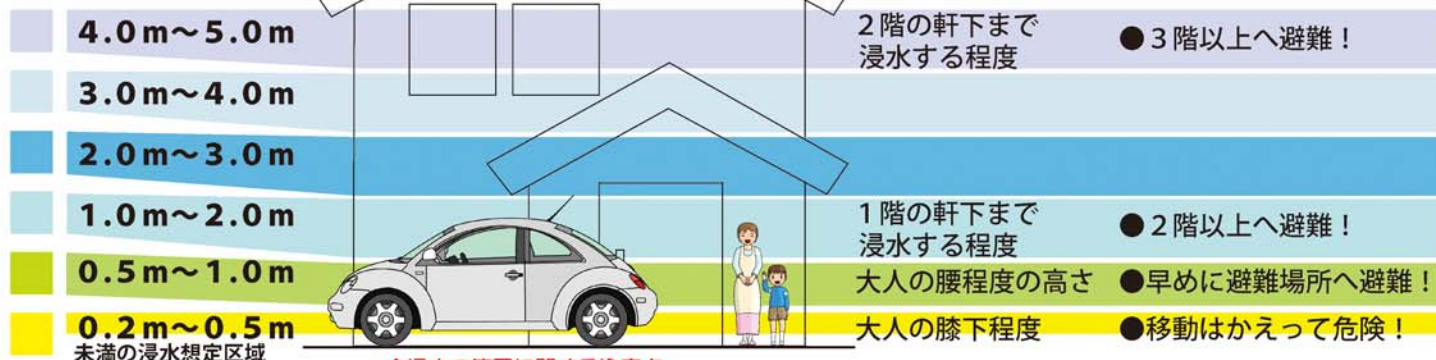
街中の排水が間に合わず、地下水路や側溝などから水があふれ出します。



本川の排水が間に合わず、支川に逆流した水により、街中へとあふれ出します。

浸水の深さについて

洪水ハザードマップでは、予想される浸水の深さを色別で示しています。



◆浸水の範囲に関する注意点

- ①シミュレーションによる浸水範囲は、実際の洪水による浸水範囲と異なる可能性があります。
- ②想定以上の洪水が発生した場合、このマップで浸水していない箇所でも浸水する可能性があります。
- ③中小河川のはん濫は考慮していないため、このマップで浸水していない箇所でも浸水する可能性があります。

水位情報と避難行動の関係図

避難の目安となる水位で、この水位になると避難勧告を発令する場合があります。準備した非常持出品を持ち、避難場所へ速やかに避難してください。

洪水により、河川からの越水や堤防決壊のおそれがある水位で、この水位になると避難指示を発令する場合があります。危険がせまっています。避難場所へ一刻も早く避難してください。



水防活動に入るための準備を行う水位です。今後の水位の動向に注意してください。

洪水に対する水防活動の目安となる水位で、この水位になると避難準備情報を発令する場合があります。避難の準備を整え、お年寄りや子どもを避難させてください。

雨の強さと降り方の目安

突発的かつ局地的な集中豪雨(ゲリラ豪雨)に関する情報は入手することが困難です。ふだんから雨の様子をチェックしましょう。

1時間雨量(mm)	予報用語	降り方のイメージ	屋外の様子	災害発生状況
10~20	やや強い雨	ザーザー降る。	地面一面に水たまりができる。	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。
20~30	強い雨	どしゃ降り。		山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。
30~50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	道路が川のようになる。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
50~80	非常に激しい雨	滝のように降る。	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。
80~	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。		

資料：気象庁(H14.1一部改正)

警報・注意報の発表がわかりやすくなりました!



長野県下諏訪町に大雨警報が発表されました。

これまで、地域ごと(下諏訪町は長野県中部「諏訪地域」)の発表だった警報・注意報が市町村ごとに発表されます。災害から身を守るために、これらの情報を有効に活用しましょう。

ゲリラ豪雨とは?

「ゲリラ豪雨」とは気象庁の予報用語ではありません。これまでの通常の気象予報では予測困難と思われる「局地的大雨」に対して用います。

【特徴】

- ・10km四方程度の極めてせまい範囲
- ・1時間に100mmを超える猛烈な雨
- ・雨が降るのは1時間程度の短時間



一時的に地域の排水能力を越える大雨が降るため、内水はん濫に注意するとともに、河川近くでは、洪水や鉄砲水にあわないよう早めに避難をしましょう。